

わたしにできること



岡山市・芳泉小2年 與曾井 美希

学校から帰ったら、テールの上に新聞が広げてありました。わたしは、「手話ののっくる！」こつふんしておかあさんに言いました。「やっぱり気づいた？」うれしそうにおかあさんが言いました。

「思いやり」をじ書でしらべました。「人の気もちになって考えること」だぞうです。こまっている人に「だじょうぶですか」と声をかけることもできると思いました。

「コミュニケーション」は、今はまだ上手じゃないけど、しょう来のゆめは、えい語と手話の同時通やくしゃになることです。そうしたら、えい語が通じなく

イラストで見る **防災減災**

準備編

要配慮者は…
手助けが必要な人へは
地域一丸で支援

協力

次、車いすの方です。階段上るの手伝って

大丈夫ですか？困ったことは？

思いやり

外国人
身ぶり手ぶりで現状を知らせよう。スマホの翻訳アプリも使えそう

コミュニケーション

「じしん」「つなみ」「かじ」

イラスト 山崎晋介

「要配慮者」は高齢者や障害者、乳幼児、外国人ら特に配慮を要する人たちを指す。2013年6月の災害対策基本法改正に伴い、従来の「災害時要援護者」から名称変

一言
アドバイス

更した。要配慮者のうち自力での避難が難しい人、支援が必要な人を「避難行動要支援者」と呼び、各市町村には名簿作成が義務付けられている。(県危機管理課)

準備編は終わり。次回から「地震」遭遇編を掲載します。

2018年3月14日付 山陽新聞

寸評

にできることを一生懸命考えています。人を思いやる優しさ、温かさに満ちた感想文でした。

高齢者や障害者ら、災害発生時の「要配慮者」への支援をイラストで示した記事を読み、学んでいる手話を中心に自分

「何かあったら、体をゆらしておすから、あんしんしてぐっすりねむってください。」

も、耳がきこえない子どもは、気づくのがおくれ、16人もなくなってしまうそうです。

もし、さいがいがおこって、ひなんじょに行くことになって、耳が聞こえない人がいたら、昼は手話を教えてもらいたいです。夜はわたしはそばにいて、「何かあったら、体をゆらしておすから、あんしんしてぐっすりねむってください。」